

2022（令和4）年度市政懇談会 開催結果概要

- 日 時 令和4年7月15日（金）午後6時00分～
- 会 場 音別町コミュニティセンター 研修室1・2・3
- 出席者 15人

〔市長より説明（別途資料参照）〕

○都心部のまちづくりについて

●質疑応答

【参加者A】

JRの対応はどのようにしていますか。

【市長】

JRはオブザーバーとして参加いただいています。計画を進める中で、情報共有を図っております。

【参加者A】

JRはお金がない状況ですが駅舎を建てられるのでしょうか。

【市長】

事業費全体の中で負担の割合の仕組みがあります。

駅舎については、JRで建てているケースは少ないです。東日本大震災で東北にJR東日本が駅を建てたことはありますが、多くのケースは事業の中で建てられるものでございます。

【参加者A】

音別の河川のハザードマップの完成時期はいつ頃になりますか。

【防災危機管理監】

音別の河川のハザードマップにつきましては、水位周知河川の指定を受ける必要があります。北海道との調整では令和5年度と伺っております。令和5年度に指定されましたら、年度内にハザードマップを作成するというスケジュールで考えております。

【参加者A】

音別診療所は平屋でありますので、水深50センチでも入院患者は水没してしまいます。以前も避難計画について質問しましたが、屋上に上げるとのことでした。現実的には寝たきりのお年寄りを雨が降っている中、屋上に上げることは不可能です。特老に運ぶのが一番早いのですが、運営母体が違いますので契約が必要だと思っておりますが、是非やっていただきたいと思っております。

標津川の洪水の記憶では、牧草ロールが危険です。牧草ロールが洪水で流れてきて、流木に引っかかり洪水を起こしている。音別では大塚の工場のところに国道を土管で通している川があり、そこに牧草ロールが引っかかると国道も工場も水没してしまいますので、流木止めを作っていただくと洪水対策になります。

【市長】

洪水につきましては、まずは人命を救うということを行っていきます。

牧草ロールにつきましては認識がございませんでした。現実的な地域ごとの対策をどのように進めていくかについては考えていく必要があります。診療所の件もまずは命を救うためには、皆様の協力をいただきどのような形で進めていけばいいのかということがございます。現実的な避難訓練もどこまでできるかということもありますが、基準水位のシミュレーションも確定したものでありますので、改良しながら進めていきたいと考えております。

【参加者 A】

毎年要望させていただき断られていますが、週1回から2回で構いませんので、リハビリを作っていただきたい。自分で避難できない要支援の方がいますが、役所の方の多くは音別に住んでいらっしゃる状況ですので、避難の際は町内会の方が率先して運ばなければなりません。寝たきりの方ですと1人に対し4人から5人必要になり、現実的には問題があります。ですから、そういう人を増やさないという姿勢をリハビリを作ることで見せてほしい。リハビリの技術はすごく向上しており、実際に脳梗塞などで麻痺した方も釧路でリハビリを受けて戻ってくると歩けるようになっていく。音別でもいろいろやっただけでいいが、やはり専門のリハビリの先生がいないため無理だと思っている。

また、音別には車いすを載せる車がない。助手席が回転する車やマイクロバスはあるが車がない。車いすが載せられないので釧路までリハビリに行けない方が結構いらっしゃる。今は車いすも個人個人で異なることから、そういう方を乗用車の助手席に乗せるのは危険であります。1台でもいいですので、車いすが乗れる乗用車を募金などを活用して用意していただきたい。

FMくしろの電波の件ですが、行政センターから電波を流しており、そのせいでNHKのFMが聞けない。災害時に緊急地震速報の電波を受けて知らせてくれるラジオがあるがそれが使えない。防災のためのFMくしろだが防災になっていない。

また、STVやHTBがAMからFMへの移行を考えており、音別ではAMが聞けなくなります。公共の放送を聞こえない状況を放置するのは法律に違反するので、是非改善いただきたい。NHKのFMが聞けるようになると緊急地震速報のラジオが使えるようになりますので、地震の前に警報が鳴りますので、一時避難が素早くできるようになります。

【市長】

リハビリの機能については、人の確保が必要であり難しいことである。また、常設なのか定期的なのかなどいろいろと相談しながら進めていく必要があります。町にリハビリが必要で、釧路地区まで通っていらっしゃる方もいる中でどのように進めていくのか医師会などとも相談しながら検討していくということになりますので、お時間をいた

だきたいと思います。

要支援につきましては、体制の問題であります。昔は個人情報の問題があり、共同会を作ることが必要でしたが、命を救うため、町内会を共同会と同じにしましょうと国がルールを変えた状況であり、双方が了解した時には個人情報の提供が可能となりました。そういった中で、町内会の役員も高齢化が進んでおり、なかなか進んでいない実態であり、これは全国的に同じ状況であります。これについては、連合町内会とも話をしておりますが、担い手不足の問題が全市的に課題となっている状況でございます。こういった状況ですので、要支援につきましては非常に苦慮して進めているところでございます。これはルールの中でできるものではなく、地域の中で言わばオーダーメイド的な対策となりますので、しっかりと議論を進めていきたいと思っております。

【参加者 A】

支援の際にけがをしたとか津波にのまれた時の補償はどうなっていますか。

【市長】

災害時の個々の補償についてはありません。責任の所在について書かれているのを見たことがありません。ボランティアという位置づけですので、どこかに責任を持たせるという制度設計はされていないと思います。改めて確認してみます。

【参加者 A】

もしなければ、市長から国に要請してほしい。

【市長】

安心して協力いただける体制は必要だと思っておりますので、調べてまたお話ししたいと思っております。

次に車いすを載せることができる車については、寄付をいただいたりしてはおりますが、多くは事業所や施設が所有している状況です。

【音別町行政センター保健福祉課長】

保健福祉課で所有しているのはマイクロバスが1台ございます。乗用車につきましてはスイングアームリフト付きで助手席まで運んでくれる車両が3台あります。

【参加者 A】

雨の日や寒い日、状態が不安定な方の場合、車いすごと乗ることができないと非常に厳しいです。

【音別町行政センター保健福祉課長】

車の更新の時期が来ましたら、そういったことも踏まえて検討していきます。

【市長】

各団体等のご意見を聞きながらしっかりと進めて行きたいと思っております。

F Mくしろの件につきましては、災害情報を的確に伝えていくため、市域全体に届くように整備してきた経過がございます。東日本大震災の時においても、NHKや民放において地域情報が全く入らない

状況でした。そこで市とFMくしろで協定を結んでおりますので、FMくしろの中にいつでも市が割り込める体制をとっています。そこで市内の通行止めの場所や土砂の危険な場所、音別の状況など流せますので、「何かありましたらFMくしろをつけてください」という形にしています。防災無線もごさいますが、家の期密度が高い状況でございまして、どれだけいいスピーカーに更新しても聞き取りづらい状況でございまして、つまり、安全性の確保のためにこういう体制とさせていただいているところです。公共の放送との電波障害との関係につきましましては、どういう対応が取れるのか検討を進めていかなければならないと考えております。

【参加者A】

このままでは、AMがNHK、FMがFMくしろしか聞こえない地域になってしまいますので、何とかしていただきたい。

【音別町行政センター長】

以前にもこの質問をいただいており、専門の調査は行っていませんが、ポイントで確認は行っており、その時は電波が通じない状況が確認できなかったところであり、電波が受信しづらい地域においては再度調査したいと思っております。

【参加者A】

NHKの緊急地震速報の電波を受けると自動起動するラジオが使えないのです。だから防災になっていない。一晩中FMくしろを聞いて寝るわけにはいきません。

【音別町行政センター長】

いずれにしても、再度調査いたします。

【参加者B】

平成17年に合併した当初、2,763人いましたが、今はおそらく半減しています。また、70歳以上が600人近くいます。こういった中で町内会活動もここ最近では機能していません。防災の面も（海拔）6mくらいしかないため、大きな波が来るとどうしていいかわかりません。地震速報が出ても、先ほど先生がおっしゃったように動けない方もいますし、いろいろと対応しなければいけないですが、対応をどのように進めていけばいいか、世帯数も減っておりいろいろな問題があって、最近悩んでいるところです。今後行政ともいろいろな話をさせていただきたいと思っております。

【市長】

本当にご苦労をおかけしているところでごさいます。人口減少問題につきましましては、こういった対応ができるのか悩みながら進めているところでもあります。人口減少は基本的に2つの要因がありまして、出生数と死亡数の関係である自然減は日本全体の話であります。地方都市の場合は、もう一つ社会減が要因の中に入っております。若い世代が進学もありますし、多くは就職で地域から出ていかざるを得ない状況であり、この構造にしっかり対峙して進めていかなければなりません。「まちづくり基本構想」でも何とか働く場所を確保するような政

策を展開していこうとするとともに地元の会社を子供たちにPRして行く取り組みを行っているところでございます。この音別につきましても、大塚製薬などの企業に来ていただいているところですが、基本は農業だと思えます。国は大規模化を進めていますが、機械化して人がいない状況で効率化していくことは経済的にはプラスです。しかしながら、地域で考えていくと、ヨーロッパ型の家族経営の方が地域の中にコミュニティが出来上がるという意見もあります。アメリカ型の大規模化が進んでいます。音別は根釧酪農のメッカと言われながら今は20戸くらいです。世界情勢を見ても「食」は誰しもの関心を持っています。食料自給率が37%の日本で酪農にしても肉にしても極めて重要な要素となっていると考えております。ですから、酪農を含め1次産業を一体となって取り組んでいこうとしております。併せて高齢化社会については、エッセンシャルワーク（生活必須職）と言われている業種で、しっかり生活が成り立っていくような所得が得られるよう、この音別の中でも構築できないかいろいろ取り組んでいるところでございます。なかなか時間がかかっていますが、先ほど申しました通り、水と食料とエネルギーがないところは生きていくことができませんことから、1次産業は必要不可欠なものであります。今まではお金で買えるものでしたが、買えない時代が来たということ踏まえながら取り組んでいけるよう試行錯誤しているところでございます。皆様としっかり相談していきたいと思っております。

【参加者B】

昨今の地球温暖化と言われていますが、釧路と阿寒と音別の森林面積が全体の74%あります。音別には私有林や社有林もありますが、ほとんどが道有林です。植樹もしておりますが、昔からかなり切っており、洪水が起きやすい状況です。林業は大塚製薬が伏流水を使っているように水も含めて音別や阿寒の財産です。林業について補助を出せとは言いませんが、ご指導いただきたいと思っております。今カラマツも人工的に作っていますが、絶対量が少ない状況ですので、市の助成など意気込みを見せていただきたい。雇用についても、平らなところは機械で切れますが、傾斜地は手で切る必要があり、技術者の雇用も増やしていきたい。林業も1次産業ですから、川上から川下までいろいろな職種があり、産業に貢献できればと考えておりますので、誠意を少しでも見せていただければと思います。

【市長】

まさに川上から川下まで一体的にどう整備するのかということですので。私が市長就任後に最初に実施したのが林業政策をしっかりと役所に身に着けさせるということでした。林業政策は地方自治体が持っており、下川町のような例外はありますが、基本的には都道府県が持っているものであります。

釧路は阿寒、音別と合併し、それぞれの面積の74%が森林でございます。釧路の場合は生産から消費まで、川上から川下まで一つの自

治体の中で取り組んで産業化ができるであろうと思っています。そのためには森林行政に詳しい人間が必要ということで、北海道の林務部から人を派遣してもらい、現在7代目となっております。

そこで市内では「木づなプロジェクト」ということで、製品を作ったり、森林環境譲与税をどうするかなどずっと取り組んできているところでもあります。北海道の中で林務部のエースと呼ばれる人たちが毎回釧路に来ていただいて、循環型の森林を作るために、80年かかるわけですが、市有林のところで回転させていくなど行っております。

これまで森林政策で釧路の名前が出ることはありませんでしたが、マスコミなどで釧路市の名前が森林政策に登場するようになってきておりますので、しっかり受け取って進めていきたいと思っております。林務部はありますので産業振興の方でしっかり進めており、これは絶対に強みだと思っておりますのでよろしくお願ひしたいと思っております。

【参加者C】

お寺をやっておりますが、高齢化が進んでおり、健康寿命を考えた時にテイクル80という体育館があり、いろいろとやっていただいているところですが、保健センターに少しあるだけで白糠や湿原の風アリーナのような器具がありません。昔は大塚の体育館を使わせていただいていたこともあります。60歳から70歳の方が自分でもちょっとした重さを加えてトレーニングできる器具がテイクル80などあって、安全に使える知識を持った人がいてくれれば、健康寿命が上がると思います。年齢が来て体が悪くなって農業をやめる方もいらっしゃいますので、そういう整備をしていただければありがたいと思います。

【市長】

公園に遊具がありますが、高齢化社会ですので、踏み台昇降や押すようなものを置いたらどうかと考えましたが、反対されたことがありました。既製品の器具を置くというのも一つありますが、音別の皆様が集まるところに地元の木材などで作るから予算を要求するなどしていただければ、必要なものは検討いたします。音別は気候もいいので、そういったことをして平均寿命が高くなりましたというようなことができればいいなと思います。

【参加者A】

森林補助金が各市町村で出ていると思いますが、薪ストーブの薪が不足しています。鶴居の業者が昨年やめまして、薪ストーブの愛好家が困っております。幸いにも音別には1社ありまして、購入することができます。薪を作るのは実は重労働でして、半年以上乾燥させるなど利益にならない部門であり、森林組合も行っておりません。エネルギーの地産地消の最たるものであり、カーボンニュートラルの最前線ですので、運搬費だけでもいいので補助金を出していただければ、薪

を作る人の助けになると思います。

【市長】

白糠が薪ストーブを災害用に確保していると国の事業の項目に出ておりました。音別では薪の事業者が大変なところをどのようにサポートするかという観点もありますし、しかしながら、先ほど鶴居の話もあったように広域で進めていくという観点もございます。すぐに回答はできませんが、薪の事業者の大変な状況を調べながらこういった形で進めていくのか検討します。